

## 都内コロナ感染者数、次のピークは「5月上・中旬」かマスク着用状況3パターンで推定 4/3 読売新聞

東京都内の新型コロナウイルスの感染者数を人工知能（AI）で予測している名古屋工業大の研究チームは5月上旬～中旬、東京都内で新たな感染のピークを迎えるとの結果をまとめた。ピークの1日当たりの新規感染者数（1週間平均）は8波を下回り、3月中旬から原則、個人の判断となったマスクの着用率が高いほど、感染の波を低く抑えられるという。

春は歓送迎会など近距離で会食する機会が増える上、大型連休に帰省や旅行で普段は会わない人との飲食が盛んになる。

チームは8波と同程度の感染力を持ったウイルスが広がる中、人の移動がコロナ禍以前の状況に徐々に回復したとの前提で感染者数を予測した。マスクの着用状況については「2割」「半数」「個人の判断に委ねる前と同じ状態」の3パターンで推定した。

それによると、いずれの場合もピークは5月上旬から中旬。マスク着用が2割の場合、5月9日頃がピークで、1日当たりの新規感染者数は8波（1万7423人）の48%にあたる約8300人。半数だと26%の約4600人（ピークは5月14日）で、着用状況が緩和前と同じだと、15%の約2600人（ピークは同月9日）だった。

### 東京・大阪のコロナ抗体保有「3割」、欧米と比べ低水準…専門家「感染広がりやすい」

新型コロナウイルスに感染したことを示す抗体を持つ人の割合が、東京都や大阪府で約3割となったことが、厚生労働省の調査でわかった。昨年2～3月の前回調査から大幅に増えたものの、欧米と比べて低い水準だ。ワクチンの接種と感染で新型コロナに対する免疫が高まるとされる。政府はマスク着用の緩和方針を示したが、専門家は「日本は海外より感染が広がりやすく、適切な感染対策の継続が必要だ」と指摘する。

調査は昨年11～12月、5都府県で20歳以上の住民約8000人を対象に、抗体の有無を調べた。その結果、感染した場合にだけ得られる抗体の保有率は、大阪が28・8%で最も高く、東京が28・2%、福岡が27・1%、愛知が26・5%、宮城が17・6%だった。昨夏以降の感染拡大で、前回調査から宮城では約1・2倍に急増した。

一方、海外では英国イングランドが約8割、米国では約6割などの報告がある。日本のワクチン接種率は高いものの、感染による抗体保有率は低水準となっている。

大阪大の 忽那賢志くつなさとし教授（感染制御学）は、感染とワクチン接種で強い免疫を持つ人が多い国では、マスクを外すなど感染対策を緩和しても感染が広がりにくいとし、「日本は今後も拡大期にはマスクを着けるなど対策にメリハリをつけ、小規模な流行に抑える必要がある」と語る。

国立感染症研究所の脇田隆字所長も「感染対策を安易に緩和すれば、日本では感染が拡大しやすく、死者の増加につながる恐れがある」と訴える。

都府県	今回調査 (昨年11～12月)	前回調査 (昨年2～3月)
大阪	28.8%	5.32
東京	28.2	5.65
福岡	27.1	2.71
愛知	26.5	3.09
宮城	17.6	1.49

※厚生労働省の資料を基に作成